

J **apanese text**

2017年 秋/冬号 日本語編

しつらい
年神様を迎える
——洗練の招福しつらい

撮影=小野祐次 スタyling=横瀬多美保 料理製作=久保香菜子
正月飾り製作=山下郁子(TSUBAKI) 市村美佳子(緑の居場所デザイン)
文=安藤菜穂子 協力=伊佐ホームズ

p.078

年末に身の回りを綺麗にし、お正月には居ずまいを正して年神様をお迎えする。どれほどライフスタイルが変化しようと、変わらぬ日本の習慣です。気鋭のフラワーアーティストやスタイリストに習い、現代の住まいや暮らしと響き合う、モダンで洗練されたお正月迎えをご紹介します。

「実とらず」とは、神様に捧げるため、実る前に刈り取る稲のこと。すくと立つ「実とらずのお正月飾り」は玄関にびったり。伝統の清らかな素材をモダンに仕立て、現代の暮らしにも合うようにデザイン。
/ TSUBAKI

Flower Art and Arrangement TSUBAKI

山下郁子さんが主宰するフラワーショップ。イベントやディスプレイなどの演出、植木も含めたトータルコーディネートが得意。自然の作り出す素材感を生かし、繊細さと力強さを感じさせるアレンジメントに定評がある。

輪飾りと室内用のアレンジメントを製作する正月飾りのレッスンはウェブもしくはメールにて受付。12月開催予定。詳細はウェブにて。

東京都目黒区八雲 4-3-5

完全予約制

日曜定休

contact@tsubaki-tokyo.jp

tsubaki-tokyo.jp

p.080

縁起物で手作りの箸置き

横瀬多美保さんからのオーダーでTSUBAKIの山下さんが作った「寿ぎの箸置き」。松葉や稲穂を水引で束ねたり、水引そのものをまとめて結んだり。小さなものをこしらえる楽しさは、時間を忘れてしまうほど。水引の色や南天の実など、さまざまな組み合わせを試してみたい。

土井宏友作の錫銀箸 3500円。長さ23cm。受注生産。

暮らしのうつわ 花田

webmaster@utsuwa-hanada.jp

www.utsuwa-hanada.jp

横瀬多美保

インテリアスタイリスト。自身の暮らしに根ざしたモダンでエレガントなコーディネートに定評があり、雑誌のインテリア企画や料理本のスタイリング、百貨店のディスプレイなど多方面で活躍。今回はTSUBAKIの山下さんとコラボレーションした横瀬さん流のお正月迎えを、自身のために誂えた錫銀箸やガラス重などを使って披露していただいた。

p.081

聖なる森の正月飾り

清爽な香りを放つ岐阜県・加子母^{かしも}の森のスギとヒノキの枝を本麻できりりと束ね、輪に結んだ紅白の水引と餅花で華やかさを添えた「緑扇の正月飾り」。加子母の森は樹齢の異なるさまざまな木々を適切な場所に植え、計画的に切り出すことで、森全体を美しく循環させる仕組みが作られている。ここで育った木は伊勢神宮のほか、法隆寺、姫路城の修復用材などに使用されている。/ 緑の居場所デザイン

緑の居場所デザイン

店舗やオフィス、住宅の生花装飾やイベントやパーティのディスプレイのほか、アトリエにてレッスンも行う。主宰の市村美佳子さんは、縁あって加子母の森と出会い、その生命力や香り、森に漂う清らかな空気に魅了され、この森のヒノキとスギを使った作品づくりを続けている。

東京都港区南青山 6-1-6 バレス青山 606

www.midorinoibasho.jp

p.082

招福のしつらい

日本の行事のなかでも、もっとも古い起源をもつと言われるお正月。一年の始まりに年神様を迎えるための門松やしめ飾りが、家庭やオフィス、商店などそこかしこに飾られ、日本中が静謐な気配を漂わせる。年神様は、本来は稲作の神様。その年の作物が豊かに実るように、また、家族が元気で暮らせるように見守ってくれる。稲穂や松、藁から編んだ縄な

どにいつとき宿ると信じられているため、正月飾りにはこうした素材が使われることが多い。

今回は気鋭のフラワーアーティストやスタイリストに、彼らならではの、新しいお正月飾りの在り方をたずねてみた。

伝統の清らかな素材を現代の暮らしに

2014年に「フラワー・アート&アレンジメント TSUBAKI」をオープンした山下郁子さん。縄を使ったお正月用リース（写真・左上）のワークショップを開催するなど、現代のインテリアに合う、洗練されたお正月飾りの提案を行ってきた。

今回の特集では、稲穂が実る前の青いうちに刈り取った「実とらず」の稲藁を、シンプルに束ねた玄関飾りを披露（P.78-79）。水引をきりりと結び、結び目に神の依代よりしろとなる松を添えた凛々しい姿は、モダンさと強さを備えている。

聖なる森から届いた正月飾り

20年に一度行われる、伊勢神宮しきねせんぐうの式年遷宮。その御用材のための神宮備林を擁する加子母の森は、岐阜県の東部、長野県との県境に広がる。この森で育つ「東濃とうのうひのき」は伊勢神宮のほか、法隆寺金堂、姫路城、銀閣寺などの修復用材や、名古屋城本丸御殿の復元などに使用されてきた名木。「美林びりんぼんせい萬世これ之たやす不滅」。これは、加子母の森が掲げる理念。植林・伐採の時期や場所をずらすことで、草花や動物、清らかな水が自然に育まれ循環する。

フラワーアーティストの市村美佳さんはこの森に魅了され、森のヒノキとスギを使った作品づくりを続けてきた。今回は青々としたスギとヒノキの枝を麻で束ね、餅花と水引をあしらった「緑扇の正月飾り」を製作。玄関ドアや居間の壁など、どこにでも掛けられ、場を清めてくれるかのような鮮烈な香りを放つ（P.81）。うってかわって華やかな「花珠と緑珠の正月飾り」（写真・上中央）は、バラとダリアの花珠に、スギとヒノキで作った丸い緑珠を連ね、ヒカゲノカズラと白玉カズラをあしらった個性的な飾りもの。清らかさの中にも、どこか優しさが漂う。

眺めたり手作りしたり 祈りを込めて吉祥を招く

来る新年に向けて、工夫を凝らしてお正月の準備をする。忙しい師走のさなかとはいえ、かけがえのない楽しさがある。スタイリスト・横瀬多美保さんのお正月迎へはさまざまなオーダー品がうまく調和してひとつの世界をなす。今回はシルバーを基調にしたエレガントな提案。銀のクロスに錫銀箸、ガラスのお重と、専用に眺めた銀の蓋。この元からある食器に「蓋」を眺めるアイデアは、見慣れた食器を一味違って見せてくれる。平らな蓋なら銘々皿にも早変わり（写真・下）。TSUBAKIの山下さんをお願いした箸置きもぜひ真似したい。

年神様を清々しく迎えるためのお正月の準備は、過去一年の邪を払い、新たな福を招く祈りそのもの。さて、今年は何を用意して新たな年を迎えようか。

（左上）

「寿ぎの輪飾り」。縄に、松、ヒカゲノカズラ、稲穂、南天の実を添えた／TSUBAKI

（中央上）

「花珠と緑珠の正月飾り」。結び飾りの組紐は、仕覆作家・上田晶子さんによるもの／緑の居場所デザイン

（右下）

ガラス作家・河上恭一郎さん作の樹が重ねられることに気づいた横瀬さんは、漆芸家の土井宏友さんに銀彩で蓋の製作を依頼。「ガラスは中が透けるので、“見通しがよい一年に”との思いを込めて」と横瀬さん。銘々重としても、写真のように集めて蓋を銘々皿として使うこともできる。ガラス樹は注文可能。縦9×横9×高さ5cm。各1万2000円。

河上恭一郎 FAX 0267-32-2155

松葉を水引で束ねて作るオリジナル箸置き

5cmほどの長さにそろえた松葉や稲穂を水引で結び、箸置きにする山下さんのアイデア。「少々値が張りますが、水引は絹巻きのものを選ぶと、どなたでも扱いやすいと思います」とアドバイス。巻き始めと巻き終わりを上手に隠すのが、きれいに仕上げるコツ。